

3 章 本計画が目指す将来都市像

1) 将来都市像

持続的な成長を支える 「軸線強化型都市構造」への転換 ～まちなかを核とした魅力ある集約都市の形成～

本市が目指す“持続的な成長”とは、人口増加や市街地拡大などの“量的な成長”ではなく、本市が有する個性や魅力を再認識し、新たな価値を創造しながら、これまでに形成されてきた地域コミュニティのつながりを維持・活性化し、市民の豊かな暮らしやまちの賑わいをより一層高めていくための“質的な成長”を表しています。

特に、本市の中心市街地（まちなか）には、商業・業務をはじめ、藩政期から連綿と受け継がれる歴史や文化の厚みがあり、他都市では決して味わえない多様な魅力が集積しています。そして、この魅力を日常生活の中で身近に体験できることが金沢に住む豊かさ、訪れる楽しさにつながっているといえます。

まずは、都市経営の基盤となる都市構造を土地利用と交通の両面から見直すとともに、生活スタイルの転換を通じて、「住んで良し・訪れて良し」の魅力にさらなる磨きをかけ、成熟時代の日本をリードする「世界の交流拠点都市」として持続的に成長する金沢の実現を目指します。

※軸線強化型都市構造とは？

まちなかを『核』として、居住（住む場所）や商業・業務等の都市機能を集積するとともに、第3次金沢交通戦略で位置づける「公共交通重要路線」を『軸』としてその沿線に居住や各種施設を中長期的に緩やかに誘導し、まちの活力を強化していくための都市の姿

2) 将来都市像の実現に向けた基本方針

将来人口推計から、本計画の目標年次である 2040 年においては人口の大幅な減少は進まず、市街地の規模は大きく変化しないものと想定されます。しかし、高齢化の進行や長期的な人口減少を見据え、市民が便利で快適に暮らし続けられる持続的に成長する成熟都市への転換を目指し、次に示す 5 つの基本方針に基づく都市構造の変革を図ります。併せて、自動車（マイカー）での移動を主体とした現在の生活スタイルから、徒歩や自転車、公共交通などの多様な移動手段を目的に応じて選択できるタウンライフへの転換を図ります。

将来都市像の実現を目指して

1 中心市街地への都市機能の集積

- ヒト・モノ・コトの求心力を増強し、中心市街地の魅力を高めていくため、歴史的な街並みや建造物を保全しつつ、商業、業務、居住、医療、福祉、教育、歴史・文化、観光等のあらゆる都市機能を中心市街地に集積します。

2 都心軸の機能強化

- 中心市街地の中でも、犀川大橋～金沢港に至る都心軸と金沢駅エリア、武蔵エリア、片町・香林坊・広坂エリアについては、都市の中軸・中心商業拠点としての機能強化を図ります。

3 公共交通重要路線沿線への居住誘導

- 子どもからお年寄りまでのすべての市民や来街者が気軽に移動でき、ライフステージに応じた暮らし方を選択できるよう、公共交通の利便性向上等を積極的に進める公共交通重要路線沿線に居住をはじめとする様々な都市機能を誘導します。

4 地域の賑わいと交流を支える拠点の創造

- 主要な交通結節点をはじめ、公共交通重要路線沿線の人口密度や都市機能の集積度が高いエリアを地域の賑わいと交流を支える拠点に位置づけ、生活に必要な機能等の充実により、歩いて暮らせるまちづくりを推進します。

5 地域コミュニティや暮らしの維持・充実

- これまで培ってきた地域コミュニティや地域での暮らしの維持・充実を図るとともに、地域主体のまちづくりを推進します。

多様な移動手段を選択できるタウンライフへの転換

- 自動車（マイカー）での移動を主体とした現在の生活スタイルから、徒歩や自転車、公共交通での移動を目的に応じて選択できるタウンライフへの転換を図ります。

3) 段階的な都市構造の変革イメージ

将来像の実現にあたっては、中長期的な人口や市街地の変容を想定し、様々な取組を段階的に進める必要があります。

そこで、本計画の目標年次である2040年（第1ステージ）において、まず、中心市街地や拠点に居住や都市機能を誘導することを中心として、これまでの生活スタイルや暮らしの価値観の転換（ソフト施策）を図りつつ、それを後押しする都市構造の集約化（ハード施策）を推進します。さらに、第2・第3ステージにおける長期的な取組を想定し、持続的に成長する成熟都市の形成を目指します。なお、長期的な都市構造・交通体系の変革にあたっては、ICTやIoT等の技術革新（産業の効率化、自動運転技術等）をはじめとする時代の潮流を加味しながら、柔軟に対応していくものとします。

	計画策定時（2016年）	第1ステージ（～2040年） ＜本計画の目標年次＞	第2ステージ（～2060年）	第3ステージ（2060年～）
方向性	・居住や都市機能を誘導する区域の設定	・中心市街地をはじめとした拠点への居住や都市機能の誘導の促進	・市域全体の都市構造の再編による集約都市形成の推進	・持続的に成長する成熟都市の実現（集約都市の維持および更なる向上）
前提（現状）	・人口は微増（2010年→2015年：約1％） ・高齢化率は25％（2015年） ・市街地が広く分布	・人口は3～10％減少 ・高齢化率は25～35％に上昇 ・市街地の規模は大きく変化しないものと想定 ・全域でスポンジ状に空き地・空き家が増加	・人口は7～26％減少 ・高齢化率は35～39％に上昇（2045年を境に減少） ・全域でスポンジ状の空き地・空き家化がさらに進行	・人口減少や年齢構成は徐々に安定化
土地利用と交通に関する主な取組	①居住および都市機能の誘導区域の設定 ②市街地の拡大抑制 ③中心市街地の都市機能の強化 ④歩けるまちづくりの推進と公共交通の強化（公共交通重要路線の明確化など）	①誘導区域への居住および都市機能の誘導 ②市街地の拡大抑制および既存農地の保全・活用 ③中心市街地や地域の拠点などのリニューアル（老朽建築物等の建替え・更新、町家の保全・活用） ④空き地・空き家の有効活用の促進 ⑤公共交通重要路線を軸とした公共交通の再編	①誘導区域への居住および都市機能の誘導 ②中心市街地や地域の拠点等のさらなる魅力向上（郊外の公共施設の再配置） ③誘導区域以外の市街地の再編（施設や基盤のリニューアル） ④人口動向を勘案した計画的な市街地再編の検討 ⑤公共交通や徒歩・自転車を中心とした交通体系の確立	①誘導区域における居住および都市機能の定着 ②様々な社会経済情勢の変化に対応しつつ、金沢の魅力を活かしたまちづくりの推進 ③安定的な住宅地の形成 ④人口規模に応じた市街地の見直し ⑤人や環境に優しい持続可能な交通体系の確立
段階的な都市構造の変革イメージ				